

学校経営推進費 事業計画書

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	グローバル人材の育成
評価指標	・外部産業の「生活実態調査及び模擬試験」における学力の到達度ならびに学習習慣の到達度 ・「GTFC for students」におけるスコアの上昇
計画名	次世代女性リーダーの育成

2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画の 中期的目標		<p>① “誇り高い強い女性”を育成するために学力・精神力を強化すると前述したが、学力・精神力の強化とは、内部競争力を高め進学意識を強め、達成感を持たせるように指導することと考える。</p> <p>② 「英語」をテーマにした具体的な取組の実現 音声中心英語教育の実践による英語コミュニケーション力のアップと、受験英語への対応をおこなった。継続して実施する。</p> <p>③ キャリア支援の充実 年間を通じて、併設短期大学はもとより、教育連携を結ぶ大学を中心に、生徒の大学教育に対する理解・関心を深めるための種々の取組を実施する。高校1年生を対象として、外部講師による講演会、大学見学バスツアー、大学体験などを実施。高校2年生を対象として、専門研究機関の協力による実験、病院や幼稚園での実習体験、農家での農業体験（春・秋）、大阪教育大学教授陣による授業シリーズ、20数校の大学・専門学校先生方による授業体験、学問分野別説明会などを実施。高校3年生を対象として、進路説明会や「面接の為のマナー講座」などを実施した。内容を検証し、充実する方向で継続実施する。</p>	
事業目標		<p>本校は、生徒一人ひとりがカトリックの精神に基づく人生観をもちそれぞれの可能性を最大限に伸ばして自己形成を図るとともに、人間としての豊かな心と主体性をもって、進んで国際社会に貢献する明朗で健康な女性に成長することをめざす。</p> <p>本校の教育の指標である、「五つの心」（祈る心・学ぶ心・奉仕する心・和する心・賛美（感謝）する心）の定着度合いを検証するため、2種類の評価指標を使用する。まず、「生活実態調査及び模擬試験」は、現在の学力の状態と学習習慣の両方をチェックするテストであり、生徒が希望する進路をかかなえるために、今、取り組むべきことが明らかになる。つぎに、「GTFC for students」は、技能別の英語運用力が絶対評価で示されるため、生徒は日々の学習に手ごたえを感じ、教員は個々の技能別の英語レベルを確認することができる。これらのデータをICT管理のクラウドサービスで管理し、教員が生徒一人ひとりの状況に応じた的確な指導を行うことで、次世代で活躍する女性リーダーの育成を促進する。</p> <p>具体的には、次の目標を掲げる。①「生活実態調査及び模擬試験」における学力の到達度ならびに学習習慣の到達度（以下、GTZ）のB2以上を年度ごとに約5ポイント上昇させ、2年後に生徒全体の25%、3年後に30%を達成する。②「GTFC for students」のスコア平均を年度ごとに40上昇させる。</p>	
取組 の 概 要	導入・整備する 設備・物品	ノートPC（特別教室・教員）、HDMI Dongle（特別教室）、セットアップボックス（特別教室）、HDMIハイスピードケーブル3m（特別教室）、無線LANルータ（特別教室）、書画カメラ（特別教室）、プリントサーバ用マシン（職員室）、プリントサーバ用24インチ液晶モニタ（職員室）、ノートPC充電保管庫（特別教室）、プロジェクター（特別教室）、ワイド82型プロジェクター一体型ボードスタンド（特別教室）、教室天井吊りプロジェクター用HDMIケーブル壁面端子増設工事（普通教室）、HDMI変換アダプター（普通教室）	
	取組 内 容	前年度	高校1年生と2年生を対象に、「生活実態調査及び模擬試験」を4月と8月の年2回実施。その結果を各学年の進路指導部担当者を中心に分析し、生徒や保護者との個人懇談等で進路指導に活用。また、高校全学年を対象に、「GTFC for students」を6月に実施。全生徒の英語力の伸びを確認するとともに、大学入試においてはそのスコアを利用し合格したケースもあった。学校オリジナル手帳（夢ノート）に学習の記録や進路講演会の要点・感想の記入を行った。また、生徒・保護者・教員間のコミュニケーションツールとしてICT管理のクラウドサービスの導入を検討・準備。
		初年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間予定 進路指導部が行っている進路行事の内容のさらなる充実。総合的な学習の時間において、高校1年生は「読む」、2年生は「書く」、3年生は「発信」をキーワードに活動し、最終的には高校3年生9月に旺文社主催「全国学芸サイエンスコンクール」に研究成果や小論文を応募する。高校2年生は、年間を通じて学研「志望理由書講座」のマスターノートを使用し、いろいろ調べる中で自分の目標やそれに関連した社会問題を理解し、将来について真剣に考えるきっかけとする。高校全学年の生徒にICT管理のクラウドサービスで自宅学習の記録を取らせ、計画的な学習習慣を身に付けさせる。</li> <li>4月～8月の予定 ICT管理のクラウドサービス導入（4月）。高校1・2年生対象に一回目の「生活実態調査及び模擬試験」を実施（4月）。高校生全員対象に「GTFC for students」を実施（6月。今年度から高校1年生のみ対象にSpeakingテストも導入）。1学期の成績や一回目の「生活実態調査及び模擬試験」の結果を基に三者懇談（7月）。高校1・2年生対象に二回目の「生活実態調査及び模擬試験」を実施（8月）。</li> <li>8月以降の予定 ノートPCを導入（8月以降）。ノートPCを活用し、総合的な学習の時間のより積極的な展開、クラウドサービスによる自学自習の促進（10月以降）。三者懇談において、ノートPCの画面に2学期中間テスト成績や二回目の「生活実態調査及び模擬試験」の結果を表示し、保護者や生徒と進路情報を共有（11月）。高校2年生は、完成した学研・マスターノートを基に1回目の志望理由書を作成・添削（3月）。</li> </ul>
		2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間予定 初年度の内容をさらに深める。高校3年生は、志望理由書に関する講演会後に2回目の志望理由書を作成・添削（4月）。</li> <li>2年度の新たな取組み ①高校2年生と3年生の生命科学コース「薬剤師1日体験」「生命科学系講演会」、看護医療コース「看護師1日体験」・学校設定科目「看護医療入門」、発達教育コース「幼稚園実習」・「小学校でのミュージカル上演」・学校設定科目「保育実習」などで学習・体験したことをまとめ、文化祭等で発表（9月）。</li> <li>②東北大震災から10年計画で取り組んでいる「東北ボランティア（毎年夏休み中）」で、大船渡ベースキャンプとのスカイプを利用したスタッフミーティングの開催（1学期）、「東北ボランティア」期間中や帰阪後に日本語と英語による高校生目線での情報発信（夏休み）、文化祭での活動報告（9月）。</li> <li>③高校2年生のハワイへの修学旅行に関する事前学習・事後学習の実施（2学期）。</li> <li>④オーストラリア・メルボルンにある姉妹校Lowther Hall Anglican Grammar Schoolとスカイプによる語学交換（2学期～3学期）。</li> </ul>
	3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間予定 2年度の内容をさらに深める。</li> <li>3年度の新たな取組み ①カンボジアで本学の母体である幼きイエズス修道会が運営に携わっているプレスクールのスタッフや園児とスカイプを利用した交流を検討。</li> <li>②2年度の内容を継続、発展させていくための課題を見つけ、改善策を検討。</li> </ul>	
取組みの 主担・実施者		取組みの主担：進路指導部 取組みの実施者：進路指導部、各教科担当者	
成 果 と 評 価 指 標 方 法	初年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生活実態調査及び模擬試験」のGTZ B2レベル以上が生徒全体の20%となるようにする。</li> <li>「GTFC for students」のスコアを前回より40上昇させる。</li> </ul>	
	2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生活実態調査及び模擬試験」のGTZ B2レベル以上が生徒全体の25%となるようにする。</li> <li>「GTFC for students」のスコアを前回より40上昇させる。</li> </ul>	
	3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生活実態調査及び模擬試験」のGTZ B2レベル以上が生徒全体の30%となるようにする。</li> <li>「GTFC for students」のスコアを前回より40上昇させる。</li> </ul>	

3. 事業費

事業費総額	3,000,000	円
-------	-----------	---

積算内訳

科目(節)	番号	内訳	1年目	2年目	3年目	単価	数量	金額
1 報償費	1							
	2							
	3							
							小計	
2 旅費	1							
	2							
	3							
							小計	
3 消耗需用費	1							
	2							
	3							
							小計	
4 維持需用費	1							
	2							
	3							
							小計	
5 役務費	1							
	2							
	3							
							小計	
6 委託料	1							
	2							
	3							
							小計	
7 使用料 及び賃借料	1							
	2							
	3							
							小計	
8 備品購入費	1							
	2							
	3							
							小計	
9 工事請負費	1							
	2							
	3							
							小計	
10 負担金・補助 及び交付金	1	ノートPC				¥34,663	60	¥2,079,780
	2	ノートPC関連ソフト				¥3,649	60	¥218,940
	3	HDMI ドングル				¥8,665	2	¥17,330
	4	セットトップボックス				¥18,973	1	¥18,973
	5	HDMIハイスピードケーブル3m				¥912	3	¥2,736
	6	無線LANルータ				¥18,699	3	¥56,097
	7	書画カメラ				¥55,643	3	¥166,929
	8	プリントサーバ用マシン				¥102,165	1	¥102,165
	9	プリントサーバ用24インチ液晶モニタ				¥15,507	1	¥15,507
	10	HDMI変換アダプター				¥2,280	3	¥6,840
	11	ノートPC充電保管庫				¥104,901	3	¥314,703
							小計	¥3,000,000
							合計	¥3,000,000